

学 年	教科等	題材名	日 時
第 5 学年	家庭科	ソーイングはじめの 1 歩（第 6 時）	令和 7 年 6 月 16 日（月）

1 本時の目標

なみ縫い・返し縫い・かがり縫いの特徴に気付き、自分に合った縫い方を選択することができる。

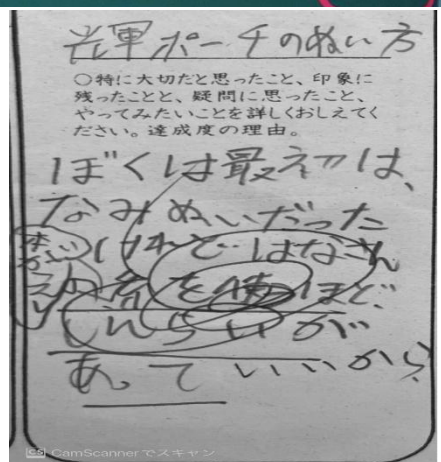
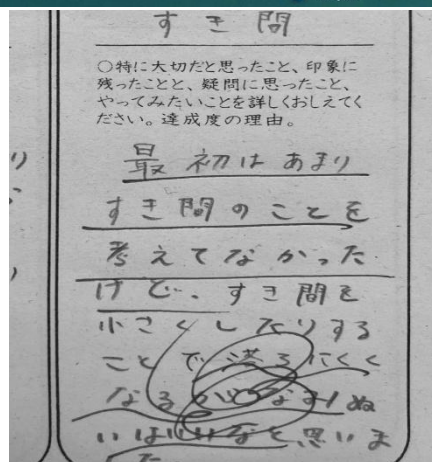
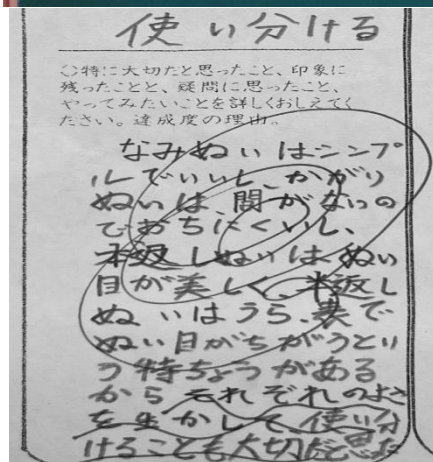
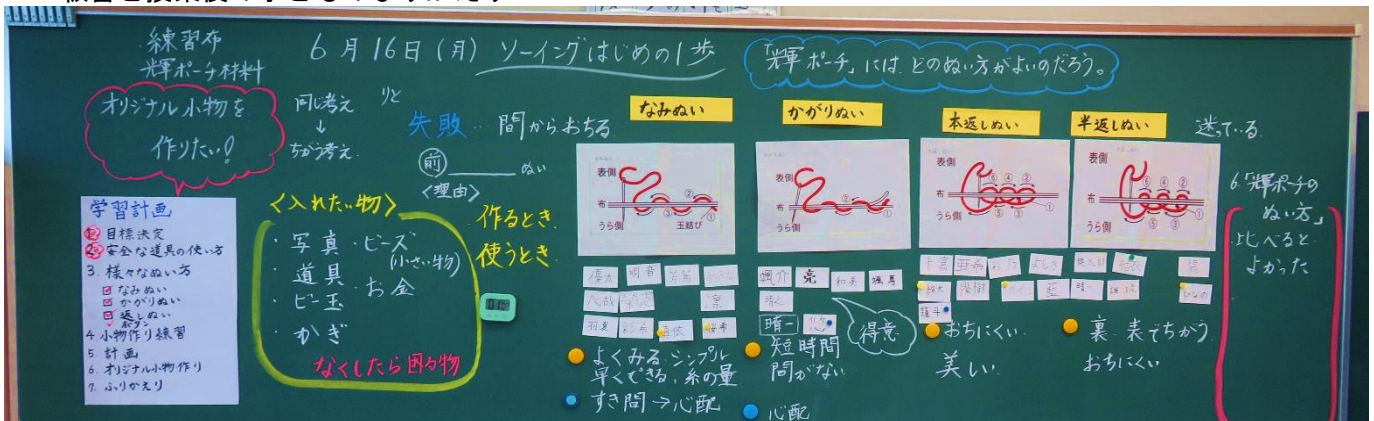
2 本時の指導過程（※「輝ポーチ」とは、学級の子どもが計画の段階で名付けたポーチの名前のことである。）

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 「輝ポーチ」に入りたい物と思いを共有し、4 種類の縫い方をふりかえり、本時の学習問題を設定する。 ○ 「輝ポーチ」に入りたい物 ・ お金 ・ バスカード 等 ○ 「輝ポーチ」への思い ・ 「お気に入りのポーチにしたい。」 ・ 「長く使えるようなポーチにしたい。」 ○ 4 種類の縫い方 ○ 本時の学習問題 「輝ポーチ」にはどのぬい方がよいのだろう。 2 4 種類の縫い方から、「輝ポーチ」によいと思う縫い方を選び、その理由を考える。 ○ よいと思う縫い方とその理由〈例〉 ・ 「ぼくは、なみ縫いがいいな。理由は、簡単にできるから。」 ・ 「わたしは、かがり縫いがいいな。見た目も好みだし、わたしにとってはかがりぬいが 1 番簡単にできるから。」 3 仲間と対話をしながら、縫い方の特徴について考える。 ○ 縫い方の特徴 〈対話例〉 A 「ぼくは、簡単だから、なみ縫いがいいと思う。」 B 「でも、なみ縫いだと、隙間ができてしまって、そこからお金が落ちてしまうということも考えられるよ。だから、わたしは返し縫いがいいと思うな。返し縫いは、難しいけど、隙間なくできるから丈夫なお財布ができそう。」 C 「わたしは、なみ縫いがいいと思う。たしかに、B さんが言ってくれたみたいに、隙間からお金が落ちることも考えられるけど、見本にあったみたいに、細かく縫えば頑丈にできそうな気がする。」 4 縫い方の特徴を全体で共有し、自分に合った縫い方を決定する。（★） ○ 全体で共有 ○ 自分に合った縫い方の決定 5 本時のふりかえりを行う。 ○ 本時のふりかえり ・ 「わたしは丈夫にするために返し縫いがよいと思っていたけど、裁縫が苦手な人の立場で考えると、縫い目が細かいなみ縫いもよいと思った。縫い目の細かいなみ縫いでやってみようと思う。」	○ 「輝ポーチ」に入りたい物を確認した後に、どのようなポーチにしたいかを共有することで、本時の学習活動への意欲を高めることができるようにする。 ○ その後、4 種類の縫い方を提示し『輝ポーチ』にはどの縫い方がよいだろう」と問い、迷っている子どもの発言を学級全体へ共有することで、本時の学習問題につなげることができるようにする。 ○ 4 種類の縫い方のなかから、どの縫い方を選ぶのかとその理由について考える時間を設定することで、練習や経験してきたことをふりかえりながら自分の考えを明確にもつことができるようにする。 ○ その際、練習布やタブレット型端末の記録をふりかえっている子どもの姿を価値付けることで、より多くの子どもが自分の考えへの根拠を明確にもつことができるようにする。 ○ 様々な考えの仲間と対話する場を設定することで、短時間で作りたと思っている仲間の考えや、丈夫に使いたいと思っている仲間の考えを聞いて、多面的な見方をするようにする。 ○ 対話中の子どもの様子に応じて、以下の手立てを講じることで、自律的に学ぶことができるようにする。 【どの方法がよいか迷っている子ども】 ・ 実際に手に取って確認できるコーナーを設ける。 【話合いがまとまっているグループ】 ・ 他の縫い方を選んでいる人の理由や、気持ちを考えるように、声かけをする。 ○ 仲間の考えを聞いて、考えが深まったり広がったりした子どものふりかえりを全体で共有することで、本時の学びを実感することができるようにする。

3 本時の評価規準

仲間との対話を基に、なみ縫い・返し縫い・かがり縫いの特徴に気付き、自分に合った縫い方を選択している。
(思考・判断・表現)【発言分析・記述分析】

4 板書と授業後の子どものふりかえり



5 指導講評

宮崎県教育研修センター 才名園 栄津子 副主幹

- 学びを深めるための対話は、自分の考えと異なる仲間と対話した方がよいと考える。自分の考えを伝えて終わってしまっているグループもあったため、視点を焦点化していく必要があった。
- 「輝ポーチに入りたい物」について話し合う場面で、子どもから「鍵を落としてしまったことがある。」等の具体的な生活経験を伝える姿が見られた。これは、家庭科でめざす「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定する」姿であった。日常生活のなかから、問題を見いだすためには、子どもが自分の生活をふりかえることが大切である。
- 本時の評価規準に示されている「自分に合った縫い方を選択している」姿は、自分の得意・不得意だけでなく、目的に合った縫い方というところを大切にされた方がよかった。子どもの見方・考え方を広げていくためには、得意・不得意だけではなく、入れる物に応じた縫い方や、使う場面に応じた縫い方を押さえていく必要がある。具体的には、細かく縫ったり、糸をたくさん使ったりすることで丈夫になるということとを共有する必要があった。

6 考察

【研究内容①：自分にとっての「生活の営み」の意味を見いだすための手立て】

- 子どもが自らふりかえる姿を引き出すためには、どれも正解である4種類の縫い方について考えた後に、仲間と対話をしたことが有効だったと考える。その理由は、どの縫い方にするかを決定していく過程で、仲間と自分の考えを比較したり、練習布やこれまでに作ったことがある小物を基に自分の経験をふりかえったりしながら、自分が選んだ縫い方でよいかの根拠を探す姿が見られたからである。
- 仲間との対話を基に、自分に合った縫い方について考えを深め、広げていくためには、対話の視点を焦点化していく必要があることが見えてきた。